

昭電工業株式会社



サステナビリティの取組みを通じて、世代を超えて活躍できる職場と地域とのつながりを育む



昭電工業株式会社

代表取締役社長
目見田 園子

従業員数

13名

設立

1964年

事業概要

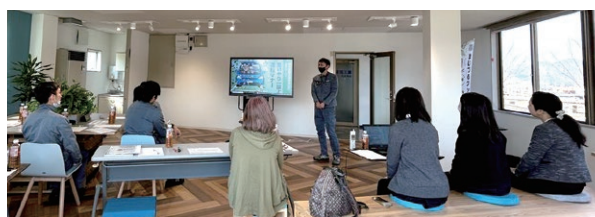
電気設備工事・空調工事の設計並びに施工・人材派遣

業界の固定概念にとらわれず、幅広い世代が活躍する職場づくりを

当社は父が創業し、私は2代目として事業を引き継ぎました。父が社長だった頃から、「男女関係なく、資格をとって、皆が自立して活躍してほしい」という考えを持っており、振り返るとこの頃から私の中でダイバーシティの意識が自然と根付いていたように思います。

電気工事業は、どうしても男性中心で現場作業ありきの職場というイメージを持たれがちです。しかし当社では、採用面接時には必ず「どんな仕事をやりたいか」を確認し、本人の希望があれば、男女を問わず現場作業に携わってもらっています。女性だから事務、男性だから現場という固定的な役割分担は設けていません。

当初は、女性が現場作業に入ることに對して否定的な意見もありました。しかし実際に取り組んでみると、**職場の雰囲気**が明るくなり、**コミュニケーションが円滑になったことで業務効率も向上しました**。会社は一生のうちで非常に長い時間を過ごす場所です。従業員が嫌々仕事をするのはなく、やりがいや楽しさを感じながら、気持ちよく過ごせる職場でありたいと思っています。



若手の育成と、ベテラン世代の活躍を両立する

若手世代の育成にあたっては、ベテラン世代の力を借りています。私からベテラン従業員に「少し助けてほしい」と声をかけたことがきっかけでした。体調や生活リズムに配慮しながら無理のない働き方を取り入れつつ、可能な範囲で若手の育成に関わってもらっています。

ベテラン世代にとっては、自身の経験や技術を次世代に



伝えることが新たなやりがいとなり、若手世代にとっては、時間をかけて丁寧に教えてもらえる安心感につながっています。**世代を超えて、支え合う関係性が、幅広い年代が活躍し続けられる職場づくりに結び付いていると感じています。**

「健康」は世代を超えた共通テーマ



当社の取引先には、サステナビリティ経営に積極的に取り組まれる企業が多くあります。**当社も同じ目線で信頼していただき、長いお付き合いを続けていくために、健康経営や廃材の有効活用など、できることから取り組んできました。**



最初は、従業員が戸惑いながら渋々取り組んでいるように感じる場面もありましたが、「まずは一度やってみる。うまくいかなかったらやめたらいい。」という考えのもと、**チャレンジすることを大切に**しています。

健康経営の取組みとして、ウォーキングキャンペーンや血管年齢の測定、肩こり・腰痛予防の体操レクチャーなどを実施しています。これらは健康面の効果だけでなく、世代間のコミュニケーション活性化につながった点が大きな成果でした。健康は年齢を問わず共通の話題であり、歩数や測定結果の共有をきっかけに、自然と会話が生まれています。

また、**廃棄電線を金属や銅線などに分別する取組み**では、資源リサイクルや収益化を実現するとともに、分別作業そのものがベテランから若手への技術伝承の場にもなっています。



あえて「アナログ」を残し、顔の見える関係を大切に

DX化が進むなかでも、当社ではあえてアナログな要素を残し、日々のコミュニケーションを生み出している部分



があります。例えば、**日報は手書きで毎日私に提出してもらい、その日の出来事や様子を直接話す時間を設けています。**

こうした何気ないやり取り

が、悩みの共有やトラブル発生時の早期相談につながります。便利さを優先することで関わりが減ってしまわないように「話せる関係」を意識的に作ることを大切にしています。

イベントを通じて、地域から愛される企業へ

当社はBtoBビジネスが中心で、これまで地域の方々の接点が少ないことが課題でした。そこで**地域住民や学生を招いた「オープンカンパニー」や、小学生向けの体験イベントを開催し、電気工事業という仕事を知ってもらう取組み**を行っています。

これらのイベントを通じて、従業員自身も「自分の仕事をどう伝えるか」を考えるようになり、仕事への理解と誇りが深まっています。また、**取引先企業のZEB化推進**にも取り組み、



情報提供から総合的なサポートまで様々なニーズにお応えできる体制を整えています。



当社はこれまで地域に支えられてきた企業として、事業を通じて地域のサステナビリティ経営を支援し、さらに身近な存在として、これまで根差してきた地域へ、さらに貢献していきたいと考えています。

ここがポイント!

- ダイバーシティを業務成果や生産性向上へ結びつけている点
- サステナビリティ経営を「日常の会話と行動」に落とし込んでいる点
- 「会社・仕事を理解してもらうこと」を軸に地域との関係を構築している点